

平成 29 年度第 1 回立川市総合教育会議 議事録

開催日時 平成 29 年 6 月 30 日（金曜日） 10 時～11 時 25 分

開催場所 立川市役所 208・209 会議室

出席者 [構成員] 清水庄平（市長）、小町邦彦（教育長）、松野登（教育長職務代理者）、田中健一（教育委員）、伊藤憲春（教育委員）、佐伯雅斗（教育委員）
[事務局] 小林健司（総合政策部長）、栗原寛（教育部長）、小宮山克仁（総合政策部企画政策課長）、庄司康洋（教育部教育総務課長）、浅見孝男（教育部学務課長）、小瀬和彦（教育部指導課長）、矢ノ口美穂（教育部教育支援課長）、南彰彦（教育部学校給食課長）、五十嵐誠（教育部生涯学習推進センター長）、土屋英眞子（図書館長）、金井誠（統括指導主事）、川崎淳子（統括指導主事）

議事日程 1. 議題

- (1) 学校教育の情報化の推進について
- (2) 多文化共生のまちづくりを担う人材育成について
- (3) 新学校設立に向けた取組について

2. その他

議事録

（清水市長）

それでは、定刻となりましたのでただいまから平成 29 年度第 1 回立川市総合教育会議を開催いたします。本日の会議は議題が 3 件ございます。議事進行につきまして、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

1. 議題

(1) 学校教育の情報化の推進について

（清水市長）

まず議題（1）であります「学校教育の情報化の推進について」、事務局の学務課長から説明をお願いします。

（学務課長）

学校教育の情報化の推進について、最初に概略をご説明いたします。

学校現場における情報化を進めたい趣旨は 2 点、ございます。1 点目は学校内の情報セキュリティの定着であり、個人情報流出のリスクが高いため、セキュリティを強化したいこと。2 点目は先生方の業務を効率化する支援をすることで、現場の先生方が子どもたちと向き合う時間をより増やしたいこと、この 2 点でございます。

立川市の学校教育の情報化の現状についてでございます。

子どもたちの学習を支援するためのタブレット端末の導入率は多摩地区トップであり、非常に進んでおります。この点につきましては、市長が公約として掲げていただき導入が増えましたので、立川市の小中学生はとても恵まれた学習環境にあります。市長のご英断に感謝を申し上げます。

導入の成果についてでございますが、実際に表の1枚目、表の左下にお示しいたしましたとおり、タブレット端末の導入をはじめとした、さまざまな施策が有機的に結びついた結果、児童、生徒の学力が都平均と比べても高くなってきているという成果があらわれております。

しかしながら子どもたちを支える校務支援の情報化は残念ながら多摩地区では最も遅れています。以上について、配付した資料をもとにご説明をさせていただき、学校教育の情報化の推進について、ご協議をいただきたいと存じます。

それでは資料に基づきましてご説明をさせていただきます。

まず、現状についてです。資料1枚目左上、現状をごらんください。現状につきましては昨年度にタブレット端末を全校に配置を完了しております、校内には無線LANを完備してございます。タブレット端末の導入状況はこの表に示してありますとおり、小学校、中学校、それぞれ台数は違いますが、教員用の指導用タブレットパソコンとともに、小学校が54台、または47台、中学校は40台配備しております。また、ソフトウェアについても順次導入が進んでおり、指導用のデジタル教科書についても順次導入が進んでおります。特別支援学級については、iPadをおおむね2人に1台を基準に整備しております。

下の段、導入の成果と効果でございます。先ほどご案内申し上げましたとおり、多摩26市でトップ、1,955台を完備しております。2位以下と比べましても非常に立川市はタブレット端末導入が進んでおります。23区内でも、本市を上回る設置台数は荒川区など6区のみということになっております。

さらに、導入環境につきましては校内無線LANの整備率が100%に達しております、体育館でも接続できるようになっておりますので、災害発生時には避難した市民も情報のやりとりができるという環境になってございます。

この導入の成果につきましては、児童、生徒の学力向上ということではデジタル教科書などの教材を使用することによって、児童、生徒の学習意欲が高まっており、学習の学力向上に寄与しているというふうに数字として下にお示ししたとおり、算数、国語の都平均を上回る成果が出ております。

本日は、教育委員会事務局で設置しておりますICT教育推進委員会の委員であり、ICTについて造詣の深い南砂小学校、関口校長先生にゲストスピーカーとしてご出席いただいております。ここで関口先生には現場の状況について、映像を交えてご説明をいただきます。それでは関口先生、よろしくお願い申し上げます。

(関口校長)

南砂小学校校長、関口でございます。本日このような機会をつくっていただきまして、まことにありがとうございます。それでは私のほうで少し説明をさせていただきます。

まず、市内全部の小学校にタブレットパソコンを導入していただき、市長には厚く感謝申し上げます。南砂小学校347名の現在児童数、12学級ですが、導入していただいた9月からこの5月まで、月平均のタブレットの使用回数なんです、教師が使う指導用タブレットは月平均で大体350回です。それから子どもたちが使う学習用のタブレット、こちらは62回。毎月、この数をやっております。ですから合計しますと、毎月412回

は必ずタブレットパソコンを使っているという現状になります。

では、このタブレットパソコンを使ったところで、教師のほうは、とにかく教材研究をやっているのが楽しい、授業づくりが楽しい。私は経営方針で、教師の成長こそ子どもの成長だ。ですから教師は授業で勝負しろというふうに言っておりますが、とにかく授業をつくるのが、いろいろな工夫ができるというふうに言っております。

では早速授業の様子を実際に見ていただこうと思います。まずはじめに、子どもたちが使っている学習用タブレットの利用の状況です。小学校2年生、生活科、いきものを調べようという単元で、インターネットに接続をしてインターネットの図鑑、これはNHKのほうでつくっている図鑑ですが、「ものすごい図鑑」というものであります。それを使っての授業です。

子どもたちは、カブトムシを調べるという学習になります。インターネットの図鑑ですから、この女の子がさわっているようにどういう向きでも見ることができます。それから拡大をすること、さらにもちろん縮小もできますし、細かいところ、自分が見たいところを自由に見ることができるという利点があります。こういう図鑑を使いまして子どもたちはいろいろな角度から観察をすることができる。拡大縮小が非常に簡単で容易である。それから何よりも虫が怖い子というのも、現場ではいるんですね。でも、そういう子でも実際に調べることはできる。

それから、その虫も、1人が一つずつ、必ず調べることができるわけですね。数が、実際の虫がいなくても調べることができる。それから紙の教科書にはない映像のおもしろさもそうですが、あとは音声、鳥とかそういうものの鳴き声ですとか、そういうものも取り入れることができます。それによって児童の興味関心が非常に高まるというふうに言える。もちろん、このデジタルと実物、これも必要ですが、この授業の後では実際のカブトムシの幼虫を子どもたちにプレゼントして、それを育てようというように形でやってまいりました。

次に、今度は高学年です。5年生の社会科。暖かい地方、寒い地方。この単元の学習で、友達が作成した発表ノート。これはパワーポイントによる発表なんですが、それにコメントを入力しようという学習です。

実際に子どもたちは1人1台ずつタブレットパソコンを使っています。授業の中で暖かい地方、例えば沖縄であるとか、寒い地方、北海道であるとかの資料を、子どもたちは既につくり終わったところです。そして、その資料を1人ずつ見ながらそこにさらにコメントを加えていくというところですね。大変よくできましたというスタンプが今見えますけれども、こういうスタンプも使いながら、友達のここがいいな、ここがもっと工夫できるんじゃないかなということをコメントで入れていきます。

この子は今、友達が作った沖縄の資料を見ているところですね。こういう資料を今、実際に友達はどういうふうにつくったのか。それを目の前で、同時並行で30人がみんなできるというところに、このタブレットパソコンのよさがあるというふうに思っています。

次にこれのコメントを入れるところですけども、この子はペンを使って、実際に手で書いてコメントを入れます。それからキーボードを使って入れることも可能です。キ

ーボード操作、それからペン操作。それから実際に指で書くこともできます。いろいろな入力方法を実際に子どもたちが行うことができます。この発表ノート、子どもたちが学習用タブレットを使っていますが、これによって、写真等の資料を簡単に取り入れることができる。それから作成時に、何度も何度も修正したり、また加筆したりということが容易にできます。それからコメントを記入することで、児童は相互評価をすることができます。しかもそれが一斉にできます。また、簡単に行うことができます。そしてデータも残りますので、それを保存することができます。さらに、そういうふうに時間を短縮できますので、子どもたちが思考する時間、子どもたちに考えさせる時間を十分に確保することができます。これによって、先ほど2年生は興味関心という部分ですが、思考力や判断と、特にこの場合は表現力を育成することができていると思っています。

次に指導者用タブレットの利用です。5年生算数、図形の角。その中でその単元の最後、まとめの問題のところですね。ここで教師がデジタル教科書を使って問題を提示しています。このようにまとめの問題を、ページの中に幾つもの問題があるんですが、その中の今からこれをやるよという問題を拡大しています。そしてそれで子どもたちに説明をさせる。ふだんですと、大きく模造紙に書いたり、それから黒板に板書をしたり、そういう時間が必要になってくるんですけども、このタブレットパソコンでデジタル教科書を導入したことによって、それらの時間が全て短縮することができます。しかも子どもたちが集中してこのテレビの画面を見ることができます。

このデジタル教科書の導入によって、このようなよさがあると思っています。一つは拡大が非常に簡単に行えて、問題に集中させられる。さらにデジタル教科書は誰でも使うことができます。タブレット、パソコンが苦手な教員でも使える。ですから私は、本校におきまして、南砂では特に算数の授業は、必ずデジタル教科書を映すだけでも映してくれと。そうすると子どもの集中力が変わるよということで、そういう指導を教員に行っています。

さらに、紙の教科書にはない、映像指導。これは国語のデジタル教科書で特に優秀ですけども、音声だとか、それから映像の、動画の動き、ビデオ等を見せることができ、紙にはないすばらしいものがあるというふうに思っています。

以上が実際にデジタル教科書、それからさまざまなソフトを使った子どもたちの状況です。子どもたちは大変このデジタル教科書を使うことが好きです。そして教員も、このデジタル教科書を使うことが、授業改善に本当に結びつくよというふうに考えます。私からは以上です。本当にどうもありがとうございました。

(学務課長)

関口先生、ありがとうございました。続きまして資料1枚目、右側、校務面における情報化の現状と課題についてご説明いたします。

授業の部分では立川市は都内でもトップクラスの先進市でございます。残念ながら校務の情報化については、立川市は真ん中にも表に示したとおり、類似市の中でも逆に校務支援システムがない、センターサーバがないということで、この方面では残念ながら非常に遅れております。

パソコンにつきましては、教員に1人1台、参考の②に書いてありますとおり、配置

しておりますが、一番古いパソコンは、再リースをずっと重ねている状況が、平成 21 年度、平成 23 年度以降続いております。

それでは課題について、校務面でどういう現状なのかというところを、資料 2 枚目、「2. 校務の情報化」をごらんください。1 番目、セキュリティが非常に弱くなっております。現在、庁内で使っております「羅針盤」のように、データを共有してございません。各校にそれぞれ簡易サーバを設置しておりますので、データのやりとり、例えば A 校から B 校にデータをやりとりする場合は、現在でも USB を使わざるを得ない状況になっております。USB メモリを使わざるを得ないので、紛失、また情報への不正アクセス等による個人情報の漏えいの危険性が否めない現状でございます。

さらに 2 番目といたしまして、簡易サーバ、これを略して NAS というふうに言っておりますが、各校に設置しておりますので、災害発生時にはデータが失われる危険性がございます。

さらに 3 点目、これが一番大きいのですが、校務支援システムが導入されていないため、学校の先生方が、例えば成績を処理する等、データをやりとりする等に負担が大きくて、生徒、児童と向き合う時間がその分少なくなっているという現状がございます。

課題の一例としてご披露させていただきますと、特別支援教室キラリがスタートしておりますが、巡回指導教員の状況をご説明いたします。特別支援教室キラリの教員は、拠点校から大体一人当たり 3 校程度の学校へ子どもたちの指導に派遣をされております。現在は先ほど申し上げましたとおり、市内の学校の情報のやりとりができませんので、派遣先にあるパソコンでは自校でご自分が作成したさまざまな指導データ等にアクセスができません。そのために、拠点校にある自分でつくったデータなどは、USB メモリで持ち込むか、拠点校に戻ってからデータを拠点校のサーバにアクセスして校務を行っております。このため業務の効率が悪く、大きなご不便をおかけしているのが現状です。

ここで再度、関口校長先生に、また学校現場における校務面における情報化の現状と課題について簡単にご説明をしていただきたいと思います。関口校長先生、再度よろしくお願い申し上げます。

(関口校長)

では続きまして、私が感じている校務面での課題について、お話をさせていただきます。先ほど話しましたように、授業の面では子どもたちの主体性、これが非常に大きな興味関心が高まり、思考力、判断力、表現力が高まり、本当に子どもたちが主体的に学習に取り組めるようになってきたなと感じているところです。

ただ、今、課長から話があったように、校務の面については、まだまだ課題があるなと感じています。私が一番大きな課題だと考えているのは、そこに赤く示してある 2 点です。

1 点目、校長、副校長という管理職が教員のパソコン、またはタブレットを実際には管理できていないという状況である。もちろん、目の前にあることはあるんですが、管理職が教職員のパソコン、タブレットの中身、何をやっているのか、中のチェックができないということです。校長、副校長が使っているのは、市のほうの「羅針盤」につな

がっているパソコンです。そうすると、回線も違いますし、それから校務用の教員が使っているパソコン、さらにタブレットとも回線が全く違う。ですから、教員が何をやっているのかということ、きちんとチェックすることができません。それが今、大きな課題だと思っています。

それから、教職員と直接データでやりとりもできません。USBを使うなり、何かほかの方法、別の媒体を使って、USBを使ってデータのやりとりをしなければならないので、さまざまな資料を送ったり、報告したりするときに非常に手間がかかっているというふうな状況があります。

2点目です。サービス事故が発生する可能性が非常に高いということです。現在、校務用に教員が使っているパソコン、それから今回のタブレット、これはUSBのところはロックがかかっていません。ですから自宅から勝手にUSBを持ってきて、それをこっそり使うことも実際、今の現状では可能です。これは市のパソコンとは違うところです。ですから、もしかしたら、いろいろな大事な成績等、個人情報などをこっそりと盗み取ることも今は可能な状態です。

それから職務と関係のないサイト、インターネット等のサイトに自由にアクセスをすることももちろんできます。それを管理職として全部チェックをすることができないという状況になっている。これら幾つかの課題があり、これらの校務のさまざまなソフト等入れていくことによって、何とか解決ができないかなと、いつも考えているところです。ぜひ、ご協議をお願いしたいと思っています。私からは以上です。

(学務課長)

関口校長先生、ありがとうございました。資料2枚目にお戻りください。以上のような現状につきまして、課題解決として、ご提案をここで申し上げたいところが、将来的な目標といたしまして、現在の庁内のイメージと同じように、センターサーバを導入し、データを一元管理することでセキュリティレベルを上げるとともに、業務の効率を高めることで、学校の先生方が子どもたちの指導時間をより確保していく情報環境を整備することが目標です。

イメージとしては、現在、我々市職員が日々使用している庁内システムである「羅針盤」と同等のものを導入することです。それが資料2枚目の右側の表のとおりでございます。現在、学校現場は図1のとおり、各校の情報のやりとりができません。市役所との情報のやりとりは管理職の先生が「羅針盤」を使えますので、そこは結んでおりますが、そのデータと先生方のデータは、今関口校長先生がご説明されたとおり、やりとりができません。校内のパソコンは校内のNAS、簡易サーバとのやりとりのところにとどまっております。

目標とするイメージは現在の庁内「羅針盤」のように、A校、B校の情報のやりとりも、センターサーバを通じて導入すること、またそこに校務用パソコンが、校務支援システムも入って、先生方が業務をより効率化することが将来的な目標でございます。

以上、学校教育の情報化の推進について説明をさせていただきました。市長はじめ、教育長、教育委員の皆さまにおかれましては、今後の学校教育の情報化の推進に向けた意見交換をどうぞお願い申し上げます。以上でございます。

(清水市長)

議題の1につきましては、以上で担当課長からの説明は終了ということでございます。この件につきまして、それぞれお考え、ご意見ございましたらご披露願いたいと思います。では、松野先生。

(松野教育長職務代理者)

説明ありがとうございます。立川が1,955台、多摩でナンバー1のタブレット端末の導入、これはもうすごいことだと私は思います。そしてまた、増えたんですね。なおかつ、適宜性の非常にある施策の実現というふうに捉えています。といいますのは、もう今指導要領の改訂もありまして、思考、判断、表現力、これが求められていることはもう皆さんご承知のとおりでありますし、立川市の教育委員会指導課においても、いわゆる立川スタンダードをもっともっと定着させていく、そして思考、判断、表現力を高めていく、そのことが一番のテーマです。

それを一番やっていたのは、背景となったのは29年度の立川市のICT教育の推進、ここの①、②に具体的に内容が書かれておりますが、特に私はこの中でも、①のICTを活用した授業の推進、いわゆるタブレット端末の効果的な活用について、この中に、今、児童に対する学習の関心意欲、思考力、判断力、表現力を育む授業展開と学力の向上。

もう一つはコンテンツライブラリの活用で、指導案だとかワークシート、教材との先生方の活用を図っていく、そういうことも盛り込まれております。

今、関口校長からも説明がありましたが、思考、判断、表現力を高めていく、この学習は大体、問題解決という学習が多いんですね。そうすると情報の収集、あるいは整理する、まとめて、それを論理的に組み立てていく。そういうようなことが、実は極めてやりやすい。

私もよく現場を回ってみますと、今、どの教科もみんな問題解決的な学習のスタイルになっております。特にタブレットを使った例で、「おお。」と思うのは、例えば算数的な活動を子どもたちが行います。こういった情報をタブレットできちっと教室中に打ち出すことができます。これはいわゆる資料を視覚的に訴えるということでもありますから、子どもたちは実にわかりいいんですね。その中でいわゆる思考、判断、表現ではありませんが、子どもたちは比較したり、あるいは説明の根拠を求めたり、あるいは根拠を説明させたり、関連させたりして学習が進んでまいります。こういうことも、もうふだんの立川市の小学校、中学校でも展開されている内容であります。

そういう意味で、私はこれから、一番の課題はこの活用効率をどう高め、そして思考、判断、表現力を高める学力向上へつないでいくかということだろうなというふうに思っています。

そのためには、より高速で信頼性の高いネットワーク環境、今提案がありましたセンターサーバによる一元管理を導入する。そのことはやはり避けて通れない課題になっていくんだろうというふうに思っております。これらがもし完備していきますと、もっともっと先生方のいわゆるタブレット活用効果というものが、もっともっと伸びていけるのではないかと、このように感じております。ぜひ、進めていっていただきたいというふ

うに思います。以上です。

(清水市長)

田中先生。

(田中委員)

関口校長先生、どうもありがとうございました。先ほどの先生のご説明、それとまた映像を通して、改めて児童一人一人が主体的に取り組んでいる、その様子を拝見して非常にうれしく思います。やはり先ほどの映像を通して、子どもたちが基礎、基本をしっかり学び、なおかつそれを応用しながら、そしてなおかつそれを発展的に学習していく。そこにまさにその学びの深さ、そういうものを強く実感いたします。その結果でしょうか、非常に南砂小学校は学力が高いと、そんな報告も受けております。改めて感謝申し上げます。

そこで、先ほどの説明をいただきながら、清水市長に改めて心から御礼を申し上げたいと思います。実はこの学習面でのICT活用については、清水市長のお力添えでタブレット端末の台数が多摩地区トップであると、先ほどもまさに学務課長からご説明ありました。

実は私の友人が三鷹におりまして、三鷹は平成12年からICT教育に相当力を入れていきます。その方からこの間電話がありまして、本当に私は立川がうらやましいと。よくここまで整備されたと。その英断はまさしく清水市長でありますし、また23区の中でも上位であると。その結果がきちんと各学校の学力、学習状況に確実に出てきている。そのことは本当にうれしく思っております。今後さらにその成果が期待できるものと強く確信しているところです。

その背景にあるのは、先ほどのタブレット端末使用に当たっては、整備については学務課が、また指導については指導課の課長が中心になって進めていただいていること、本当にうれしく思います。

また、本当に清水市長にはお礼を申し上げたい2点目ですが、実は平成29年度一般会計の予算額で適応指導教室へのタブレット端末、と学習支援の導入等々の予算があるわけですが、実は、この教育費が103億3,015万円を計上していただきました。実にこれは全体の14.4%でして、他の自治体には見られない予算だなということで、本当に驚いておりますし、改めて清水市長が教育に対していかに大きな期待を寄せられているか、本当によく理解できます。改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

その上で、先ほど校務面でのICT活用についての提言でございます。具体的には先ほど関口校長先生、そしてまた浅見学務課長からもご説明がありました。今後の課題としてはセンターサーバによる校務支援システムの導入、これを重ねて提言申し上げます。

現在、各学校での緊急の課題として、校務の多忙化という問題もございますけれども、それ以上にセキュリティの問題としてUSBメモリによる個人情報情報の漏えいの危険性、これがございます。これはもう、いつ起きても不思議ではない、そういう現状でございます。そのように私も把握しております。

とりわけ、教育委員会から各学校へ貸与しているUSBメモリ、これについては使用

制限やアクセスログなんていうのが取得できていないため、万が一個人情報情報が漏えいした場合、誰が、いつ、どこで、どのようにしてその個人情報情報が漏えいしたのか、その原因が特定できない、極めて危険な状況にあります。

そのため、それこそ学校はもとより、行政の対応に大きな困難を来たすことは十分予想されるわけであります。また一方においては、NAS、バックアップHDDによる問題もございます。これらは学校の校内に設置されているため、万が一、火災とか地震が発生した場合に、校務データが完全に喪失され、再生はほぼ不可能であります。そのために各学校はセキュリティの問題に常にさらされ、不安を抱いているのが現状でございます。

これらの問題解決のために、センターサーバを導入し、データを一元化することでセキュリティレベルを引き上げること以外にはございません。その際、校務支援システムと同時にそれを導入していただくことによって、教員の校務の多忙化、これが解消され、子どもと向き合う時間の確保が可能になります。

実はもう、これの例としましては大阪市の例がございます。このセンターサーバを導入し、校務支援システム、これを実施している大阪市の場合の例でございますが、年間152時間の時間を生み出しております。その時間を通して、子どもと向き合う時間が確保され、なおかつ学力が確実に向上している、そのことが報告されてございます。

改めて、今後の働き方、教員の働き方にも大きく寄与するものでありますし、そして何よりも全小中学校の先生方の強い願いであります。また、立川の教育の未来への大きな投資であると私は考えております。

どうか、今後ともこの点をご検討いただくことをよろしくお願い申し上げます。私のほうからは以上です。

(清水市長)

ほかにございますか。はい、佐伯さん。

(佐伯委員)

おはようございます。私もこの教育の情報化、また校務の情報化、これは本当に大切に、ぜひ市長にもご理解いただいて進めていきたいなと思っております。何をどういうシステムかというのは、大変大事だと思うんですが、それを誰が今後どのように使っていくって、どのような結果が出ているのかということも大変重要だと思うんです。

このタブレット端末を入れて、今、いいことはすごくわかっているんですが、例えば何か問題があつて、もっとこうしたらより使えるということがあれば、それも市長にお伝えいただきたいし、また校務の情報化でセンターサーバを置いた場合に、これはセンターサーバを入れたから必ず情報が全て守られるというものでも、やはり誰が使うのか、どう使うのかという、法令順守ということにとどまらない、細部にわたったコンプライアンス的なものもしっかりと使っていく方々にしていかなければ、このセンターサーバというのものやはり、どのような成果を出していくかというのはちょっとわからないという、そのあたりも含めてぜひ市長にお話しをいただいて、進めていっていただきたいというのは私も重々、そのつもりでおります。ぜひ使う側の、今現在の課題ですとか、導入した後の、それをさらに推進していくためのそういった取り組みであるというもの

も、ぜひこういうところに組み込んでいただけると、市長もよりご理解をいただきたいのかなと思っておりますので、ぜひその点からのご説明も今後いただけたらと思います。以上です。

(清水市長)

ほかにございますか。伊藤さん、よろしいですか。

(伊藤委員)

皆さんのお話でも十分必要性というか、ぜひ、これは必要性というよりもなければいけないような状況に、現在はなっているのではないかと。特にUSBの場合には、何年も前になりますけれども、学校でUSBを、自分のものを使ったことによっていろいろなトラブルに巻き込まれたことが本当にあります。

いろいろな社会が進めば進むほど、いろいろなことを考えてくる方がいらっしゃると思いますので、少しでもそれを安全にするためには、もう今、絶対に必要なものであるというふうに考えておりますので、よろしくご検討のほど、お願いいたします。

(小町教育長)

21世紀はAI含め、IoT含めまして、もうデジタル世界の中で子どもたちは生き抜いていかなければいけないという中で、タブレットは大変に有効な導入であるというふうに言われています。教育委員会としては、それをどう、さらに子どもの学びに深く結びつけるかというのが、学校現場とも一緒にやっていきたいというふうに思っています。

そんな中で、意外と隣の学校のいい実践が、当該校に伝わっていないというのがあるんですね。教科書、それから教育課程、ほとんど同じものを使いながら、同じスピードで動いている中で、こういったところを共有すれば、もう少し先生方の授業も深まるし、より効果的、効率的にもなるんだろうなというふうに私は授業を見させていただいても思うわけでございます。

結構手作りでやっている場面が多くて、それはタブレットの教材もそうなんです。それもやりとりできるという意味ではセンターサーバというのは大変に有効であろうなというふうに思っておりますので、そういったことを含めて、先進市の事例なんか、マイナス、プラス含めて、佐伯委員のご指摘にもございますが、検証した上で、子どもたちにどのような効果があるのかということを見きわめながら、検証を進めていただきたいというふうに思っています。以上です。

(清水市長)

5人全員からご発言をいただきました。さながら予算要望の場になったのかなと、こう思っております。ちょっと半年ほど早過ぎるんじゃないか、そう思っていますが、いずれにしても、タブレット端末導入、あるいは私の孫たちがパソコンをさわり始めて、あっという間に思考力や技術だとか、それから調べるのがおもしろいみたいな、意欲が湧いてくるという効果が顕著に出てくるというのは、私も知らないわけではありません。そうは言いながらも730億円の予算の中で、100億を越す予算が、教育は例外で毎年予算をつけているような状態でもあります。重要性は十二分に承知しております。今後もしろいろな面で検討してまいりたいというふうに考えています。

これをもちまして議題の1につきましては終了とさせていただきます。

(2) 多文化共生のまちづくりを担う人材育成について

(清水市長)

次に議題の(2)であります「多文化共生のまちづくりを担う人材育成について」について、事務局の指導課長から説明願います。

(指導課長)

それでは多文化共生のまちづくりを担う人材育成についてご報告をさせていただきます。

ご案内のとおり、本市では平成28年12月、多文化共生都市宣言をいたしました。この宣言を受けまして、学校教育の立場から多文化共生のまちづくりを担う人材育成のための施策について所々の教育政策を整理、分析し、再構築をいたしました。その目的及び代表的な事業について、ご報告をさせていただきます。

資料の2段目の中央のボックスをごらんください。目的でございます。「外国語やその背景にある文化の多様性を尊重するとともに、互いの考えや気持ちを伝え合うなど対話をすることができる」コミュニケーション能力を育成することにございます。

この目的を達成するための条件整備として、資料の1番上の段、左側、外国語活動の段階的な先行実施がございます。このことと並行いたしまして、上段中央の、小中連携外国語活動開発委員会を昨年度から設置し、各学校が外国語活動に主体的に取り組めるよう、教材開発や指導方法の開発を行っているところでございます。

一番上段の右側のボックスをごらんください。平成29年度東京都教育委員会から英語専科教員1名、また英語推進リーダー3名を配置していただきました。このことにより、今後、立川市立小中学校における外国語活動の授業展開に関する指導・助言等が効果的に行われるようになります。

それでは続いて資料の2段目、左側のボックスをごらんください。各教科等の日常の授業におきましても、主体的、対話的で深い学びが効果的に行われるよう、改訂版「立川スタンダード20」を実践するとともに、立川のまちの特色を生かした市民科の展開の中で多文化共生を推進する市民団体や留学生との交流を通して、子どもたちが異文化理解を深めるとともに、日本の伝統・文化のよさを見つめ直しているところでございます。

2段目の右側のボックスをごらんください。これは文化・芸術による子どもの育成事業でございます。演劇の手法を使ったワークショップを実施し、コミュニケーション能力を育成していきます。また、「世界ともだちプロジェクト」では、世界には多くの国があり、その国のさまざまな人種や言語、文化、歴史を調べることを通して、世界の多様性を知り、さまざまな価値観を尊重することの重要性について学んでおります。

3段目、左側のボックスは教育力向上推進モデル校として、また本年度から都の指定を受けている持続可能な社会づくりに向けた教育推進校では、自然環境や地域、地球規模等の諸課題について児童、生徒一人一人がみずからの課題として考え、解決していくための能力や態度を育成してございます。

3段目、中学校教員の海外派遣でございます。平成29年度は2名派遣をさせていただくことになりました。それぞれオーストラリアとニュージーランドで海外研修にいそしんでまいります。

4 段目、左側のボックスをごらんください。授業力アップ研修と夏季研修では、昨年度から都立立川国際中等教育学校と連携し、研修会を実施しております。また本年度、初任者研修において、教員のコミュニケーション能力向上のためのワークショップ研修を実施いたしました。

4 段目、中央のボックスは平成 29 年度予算措置をしていただいた A L T の派遣の拡大により、外国語活動を 3、4 年生から実施しております。ここで、せっかくでございますから関口校長先生から A L T の配置について、現場の声を聞かせていただけたらと思います。関口校長先生、よろしくお願いいたします。

(関口先生)

南砂小学校では、先ほど小瀬課長から話がありましたように小学校 3、4 年生においても外国語活動の先行実施を行っております。本校では 15 時間行っています。そのために A L T も派遣をしていただきまして、ありがとうございます。

実際にその映像を見ていただければと思います。真ん中にいるのが本校に派遣されている A L T のルーベン先生です。それと担任の教師が一緒になって、またここでもタブレットを使って実際にタブレットで音声を出しながらの学習という形になります。

(映像上映)

こんな形で A L T の教員とそれから担任、そして子どもたちが一緒になって外国語活動を 3 年生からずっと、6 年生まで今やっているという状況です。私からは以上です。ありがとうございました。

(指導課長)

関口校長先生、ありがとうございました。また、小学校の外国語活動では、中学校英語科教員による小学校の外国語活動の指導をあわせて実施しております。

最後に参考として、東京都教育委員会の初の取り組みである T G G 「T O K Y O G L O B A L G A T E W A Y」についてご紹介をさせていただきたいと思います。パンフレットを取り寄せましたのでごらんください。

「T O K Y O G L O B A L G A T E W A Y」英語村でございますが、これは体験型の英語学習施設で、平成 30 年 9 月に江東区青海に開業予定でございます。オールイングリッシュの環境で、英語を使ったさまざまな体験を通して、日ごろ培った英語力を力だめしする場であったり、より一層英語力を伸ばそうとする意欲を喚起する場であったりすることで、さらに日常の授業の中で、英語力、コミュニケーション能力を高めていこうと、そういう場になるという設定でつくられたものでございます。

報告は以上でございます。

(清水市長)

ただいまの報告を踏まえまして、皆様方からご発言をいただきたいと思います。

(松野教育長職務代理者)

ありがとうございました。英語活動もこういうふうになっていくと、英語力が多分どんどん身についていくだろうと。私、心配なのは、もう一方のコミュニケーション能力のほうなんです。

例えば私、現職のころ、若い教員と歩いておりましたら、外国の方が通りの向こうに、

若い教員は平気で「ハイ」とやるんですよね。私はやめろ、みっともないと。外国人の人が話しかけて、できるだけ私のほうに来てほしくないと思います。つまりそのあたりが、私、一番コミュニケーション能力の基本的な態度の部分で改善しなきゃいけない部分。

なおかつこれは、さらに言いますとコミュニケーションと言いますと、これはもう多文化共生の人材育成の問題だけではないんです。例えば人の気持ちを読み取るだとか、聞き上手、相手がどんどん自分のことを話したくなってしまう。それから相手の気持ちを察する。その人の話をもっと聞きたいと思わせるような、そういうふうな態度をとれる。あるいは状況や相手に合わせて、コミュニケーションスキルを使うことができる。ですから共感だとか、それからの確な質問。このあたりなんかに関しては、私は本当にもう、外国語活動に照らして考えると、いや、違うなとは思っています、私は。

ですから、本当はこういうものをもっと外国語を学びながらも、外国語活動の中で今言ったようなコミュニケーション能力も一緒に高めていきたいし、なおかつ、これは英語活動だけではないです。学校中、生活の中でこういうふうなコミュニケーションの資質、能力がもし培われるなら、これは両輪です。だからぜひ、それをやって進めていただきたいと願うばかりであります。以上です。

(清水市長)

両方ということで、あれですね、事務局のほうはよく聞いてくださいね。次。

(田中委員)

指導課長、どうもありがとうございました。実はこの、多文化共生については平成 28 年度第 4 回市議会定例会において立川市多文化共生都市宣言が可決されました。このことについては清水市長の熱い思いもあるかと思しますので、ひとつ、その清水市長の熱い思いを一言お聞きできればありがたいかと思っておりますが、いかがでございましょうか。

(清水市長)

実は、私は 20 代のころ、アメリカ大陸を一人で車で横断したことがございます。ニューヨークからシカゴ、それからシカゴから西は例のルート 66 なんですけれども、そのルート 66 に乗ってロサンゼルスまで行くと、カリフォルニアに入ると、一番最初にサンバーナディーノがあるんです。サンバーナディーノの町を通り抜けようとしたときに、これはもしかしたらうちの姉妹都市だなと。もう 50 年以上たっていますからね、私が 20 代のときにはもう姉妹都市関係がスタートしていたんですね。

まだ若かったですから、他人の迷惑を顧みずにサンバーナディーノの市役所に行きまして、市長室はどこだと、市長に会わせろと。こういうわけで、市長室へ行きました。たしか 5 階だったと思います。たまたま市長はお留守で、秘書の方が対応してくれたんですけれども、身ぶり手ぶり、片言の英語で何だかんだ言いながらいろいろな説明も受けたんです。

そのときにつくづく思ったのは、尻込みをしていちゃだめだと。思ったことを正直に伝えれば、意図は、思いは必ず相手に伝わるよというふうなことを、身をもって経験しておりました。

今、先生方お 2 人からお話しがあったことについては、まさにそのとおりだと。当た

って砕けろといひましようか、恥ずかしがってはいはだめだ。ですから、私は今、先ほど南砂小の英語の授業を見させてもらいましたし、あるいはその前のタブレットでの授業も見せてもらいましたが、どう見てもあれは、子どもたちが物おじしないで、随分積極的に対応というか、動いているようなのが垣間見られまして、すばらしいことだなというふうに思いました。

今、立川市内も外国人が大変多く来ていますので、観光情報センター以外にも、もうとにかくホテルの周囲とかを歩いていますと本当に次から次へ外国人と思われるような人とすれ違います。ああいうところへ子どもたちを連れて行って、そういう中で外国人と接するのを体験させたらいいのかな、なんてしょっちゅう思っているんです。もったいないなど。わざわざお金をかけて外国へ行かせるなんて必要ないな、そんなことも思っています、いずれにしても、立川にはかつては米軍基地があつて、英語があふれていた時代もあったわけでありますから、そういう歴史的なものも踏まえながら、立川の子どもたちにはそういう積極性を持って、外国人に話しかける。「ハイ、ハロー」でいいですね。先ほどのお話がありましたけれども、そんな子どもたちがどんどん増えてくれたらいいなというふうに思っていますし、さっきの授業を見たら、自信を持ちました。ああ、間違いなく前へしっかりと進んでいるなという感じを受けました。(田中委員)

清水市長、どうもありがとうございます。20代の本当に血気盛んなときに、きっと希望だとか挑戦、そのすばらしいことを伺いながら、なおかつその経験をもとにしながら立川のグローバルな教育、または世界市民としてどうあればいいか、そういった資質のことも含めて、本当に貴重なお話、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

その上で、先ほど小瀬課長のほうから説明がございました、立川の多文化共生のまちづくりを担う人材育成、これは時宜にかなった重要な政策であると、そのように考えてございます。そこで私のほうから3点提言を申し上げたいと思います。

まず1点目ですが、外国語活動の段階的な先行実施に当たって、指導時数の確保を各学校で検討し、決定してはどうかという提言でございます。ちょっとこちらの資料の左上のボックスです。外国語活動の段階的な先行実施と。ちょっとここをごらんください。ここを拝見いたしますと今年度は第3学年と4学年、年間10時間から15時間。第5学年と6学年が35から40時間。これを確保することになっています。

また3年後、平成32年度には第3学年と4学年が外国語活動で年間35時間。あと5、6年生については外国語科なんですね。そしてこれの中で時間としては70時間を完全実施と、こういうふうになります。

そこでこれらの時数確保について、先般、文部科学省のほうから提言がございまして、総合的な学習の時間をそれに充ててはどうかという、そういう話でございました。しかしながら、当市の小中学校では、非常に総合的な学習の時間を通して、大きな教育成果を上げてございます。私も年間、10校ほどを回りますが、その中でやはり総合的な学習の取り組み、そして成果をお聞きしますと、やはりこれは総合の時間は本当に大事だと、そういうことを強くしているところです。

したがいまして、その時間確保については、総合的な時間から充てるのではなくして、土曜日、例えば土曜日の授業時数から充てたり、場合によっては夏季休業中を短縮して充てたらどうかということでございます。

また、教育課程編成権は校長先生にございますので、各学校の状況によって、指導時数を確保してはどうかということでございます。

次に2点目です。今度はボックスの上のところの右側をごらんください。専科教員等の指導の充実でございます。ここでは、専科教員の拡充と指導の成果の共有化の提言でございます。具体的には、現在は1校に英語専科教員の配置。3校が英語教育推進リーダーの配置をしてございます。そこで平成30年度にはさらにこの教員の配置の拡充をしていただき、なおかつその指導の成果を全校で共有してはどうかということでございます。

3点目の提言でございます。ちょうどボックスの左側の上から2段目。主体的・対話的な深い学び、市民科・人権教育の推進のところでございます。ここに、新たに道德教育の推進を加えてはどうかという提言でございます。実は人権教育については、「人権道德」という言葉も使われておりますように、人権教育は道德教育の一部と、そう言われております。また、両者の違いでございますが、道德教育に当たっては、その目的と内容はあらかじめ定められております。また道德教育は人格の基盤である道德性を育てることを重要な役割としております。

また一方、この人権教育ですが、これはより柔軟な多様性と展開が求められております。したがいまして、ここでは人権教育の推進とともに、道德教育の推進を、ぜひ多文化共生のまちづくりを担う人材育成に絡むのではないかとということで、道德教育の推進をこの中に位置づけてはどうか、ということでございます。

以上の3点、提言させていただきました。今後のご検討、よろしくお願い申し上げます。私のほうから以上です。

(清水市長)

3点について、コメントはありますか。指導課長。

(指導課長)

どうも提言をありがとうございました。まず第1点目の授業時数の確保ということでは、平成32年度に向けてシミュレーションをしてございます。その結果、土曜日授業の実施とか、長期休業を短くすることで授業時数を十分確保できるというふうな結果が出てございます。

それで、ただいまお話にあったように総合的な学習の時間は、各教科で培った力を総合的に発揮させる場ということで、本市では立川市民科が具体的な時間になってございます。お話にあったように私どもも、立川市民科を削って、そしてそれを外国語活動に充てるという考えはありません。各学校と今後は相談しながら、実は学校からの要望としては、土曜の実施とか、夏季休業、長期休業を短くして、それは賛同を得てございます。ただ、1点相談してほしいと言われているのは、できれば教育委員会が主体的に決めてくれないかというような話もあるので、今後相談して決めていきたいと思っております。

それから、2点目にいただいた専科教員、実は専科教員1名配置なんですけれども、都内では25の区市町村だけでございます。今回、配置されたのが。その中で立川が選ばれたというのは、非常に大きいことかなと。やはり、これは都の施策でございまして、引き続き要望を出していきたいなと思ってございます。

それから3点目の人権教育の推進等に道徳教育の推進を加えてはどうかという提言。まさに加えていきたいなと思っております。以上でございまして。ありがとうございます。

(田中委員)

どうもありがとうございました。ぜひ学習指導要領に基づいて、円滑な実施のほど、よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

(清水市長)

ほかにご発言はございませんか。はい、伊藤先生。

(伊藤委員)

それでは一言だけ。本当にいい表をつくっていただいたなと思って、感謝しております。今もお話がありましたように、中央の目的のところ、左側のところ、主体的・対話的で深い学び・市民科の展開、それからもう一つは人権教育ということの中で、やはりもちろん、これはオリンピック、パラリンピックを控えてとても大切な部分でもありますし、それから立川市の子どもたちが世界に羽ばたく、とても大切なことだと思いますけれども、やはりその中で、障害者との共生というような形をこの中に入れてくださったり、とてもいい表であるなというふうに、私は思っております。ありがとうございました。

(清水市長)

はい、ありがとうございました。ほかはよろしいですか。それでは議題の(2)につきましては以上で終了といたします。

(3) 新学校設立に向けた取組について

(清水市長)

次に、最後の議題であります「新学校設立に向けた取組について」に移ります。事務局の教育総務課長からご説明いたします。

(教育総務課長)

それでは新学校設立に向けた取り組みにつきまして、教育総務課、学務課、及び指導課よりご報告いたします。昨年度は新校舎建設マスタープランの作成や通学路の安全対策等を中心に取り組んでまいりましたが、平成29年度は円滑な統合に向けまして、けやき台小学校、若葉小学校、及び立川第九中学校を含めた教育課程上の連携事業についても取り組んでまいります。資料の概略を説明させていただきます。

まず、平成30年4月の新学校設立に向けまして、両校児童の受け入れのための若葉小学校の環境整備を整えてまいります。さらに若葉小学校の東側、プール側のほうになりますけれども、そちらに仮設校舎を建てまして、今、現在、けやき台小学校の敷地南側にあります学童保育所を移転させます。

また、不足する部分に、移転するPTA室とか、保管のためのさまざまな両校、思い出の品等、さまざまな書類等がございます。そちらの倉庫のために供してまいります。

また、校名につきまして、さきに開催されました議会において、学校設置条例の一部改正がなされまして、公布されまして、若葉台小学校として正式決定いたしました。ありがとうございました。

校歌、校章、校旗等につきましては、平成30年の若葉台小学校開校後に決定してまいります。その選定方法につきましては今年度中に検討をしております。

通学路の安全対策につきましては、安全対策工事や誘導員の配置など、さらなる検討を進めてまいります。

保護者の方につきましては6月2日に若葉小学校PTA役員の皆様、6月24日にはけやき台小学校PTAの役員の皆様に統合の進捗状況や今後の予定をお伝えしましたところ、若葉小学校では主に児童が急増することによる不安、けやき台小学校は主に通学路の安全対策に対する意見が出されました。今後も、定期的に両校のPTAの役員の方々等に、これらの状況をお伝えし、統合に伴う不安の解消に努めてまいります。

また地域の方に対しては、若葉町の青少年健全育成委員会での説明をするとともに、10月には地域説明会をけやき台小学校、若葉小学校、両校で開催し、その時点での仮設校舎や通学路の安全対策等の説明を行ってまいります。

一方で立川第九中学校を含めた連携事業でございますけれども、両校教員の合同授業研究、小中教員による外国語活動の授業のチームティーチングや、立川市民科の体験活動、運動会等の行事などを通じて、子ども同士の交流が進むよう取り組んでまいります。

また、第九中学校の特徴的な取り組みであります農業体験なども、地域やPTAの方々で連携して取り組んでまいります。

年度後半には新学校の教育課程の編成や、けやき台小学校は引っ越し準備、若葉小学校は受け入れ準備などございますが、滞りなく、3月には閉校式、卒業式が迎えられますよう、統合に向けて取り組んでまいります。説明は以上でございます。

(清水市長)

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら。はい、松野さん。

(松野教育長職務代理者)

説明ありがとうございます。私、現職のころ、統合問題にかかわった状況だったものですから、その経験から話をしたいと思います。一番、やはり統合の中で子どもたちが不安に思っていることは、一緒になってどうなのという、このことだと思ふんです。私、経験したときには、新たな大きなマンションもできましたので、旧多摩川小、南富士見小、そしてマンションと、3すくみの状態で子どもたちが、やはりみんな不安なんですね。ばらばらになると。それから溶け込めるか、新しい環境への不安。我々もすごく考えたんですが、新たに学校づくりをするときに、子どもって一体どんな存在なのか、このことをやっぱりすごく検討をいたしました。

その中で私は、やはり子どもというのは私のことを聞いてほしい。私のことを見てほしい。私のことを認めてほしいという存在なんだ。だったら、そういうことを満たすような教育活動をやろう。そして称賛、あるいは承認、こういう活動をきちんと入れてい

く。こういうことをやっていかない限り、子どもたちは新しい学校の仲間だぞという認識はとてとても、居場所というのが認識ができないであろう。こういうことから始めたんですね。

そして、これはもう、ずばり当たりました。どうやるかという、例えば交流活動やると言っただけ、交流活動の中で、どれほどお互いにわかり合えるか。難しいですよ。ただ同じ空気を吸えばよいなんてことはありません。ですから、実際に相手のことを、つまり聞いてあげたり、見てあげたり、認めてあげるような活動をし続けていくということで、私たちはそのときのつまり、学習規律という、例えばお互いに話すときは「はい」と言っただけ立っただけですね。私が話しますよ。そして聞く人たちは背中をまっすぐ伸ばして、目を話し手に向けて、手はいたずらしない。これは実は、私は人権教育の一番基本だと思うんですね。相手が話しているのに、話し手を見ないでいるという、こういう聞き手は相手の理解をしないということですし、また日本の文化には、今、課長がうんうんと言っていますように、うなづく、相づちを打つ、そういういい文化があるんです。お互いに、なるほどねと共感し合う態度。こういうものがくっついてきますと、私の話を聞いてくれたという気持ちになります。そして、なおかつ話を聞いてくれた先生が、わあ、何々さん、すごいね、あなたちゃんと話しているほうを見て聞いていたねという、みんながそういうふうに向きますし、褒められたことで、ああ、私も何か役に立っているなど、つまりそういうことのイロハから始めていったんです。

でも今、考えてみますと、通常なかなか皆さん人権だとか、相手を何といたしますか、尊ぶとか、いろいろなこと言いますけれども、具体的な活動を抜きには、なかなかそれはできないことでもあります。ですから、私、この統合問題の中で一番今やらなければいけないのは、交流活動が行われますから、その中でどれほど相手のことがわかったり、何々ちゃんよろしくね、ああ、今日行って、こういうことができて楽しかったね、そういうふうなことを具体的に感ずることができるような活動をどうやって組んでいったらよいか、それから次には新しい学校になったときに、例えば共に学ぶ、この理念を生かしたどのような教育活動が展開できるのか。やはりこのことも、何といたしますか、プランが見えてこないと何か張り切れないですよ。こういったものもやはりきちんと、夢を持たせていく、そういうようなものも並行しながら進めていくことが、とっても大事だと私はつくづく思っているんです。

ぜひ、ですから、このようなことをまず統合の中では、そうするとみんながお互いにわかり合って、安心して進める。というふうな体験であります。ぜひ参考にさせていただいて、いい統合になればというふうに思っています。以上です。

(清水市長)

総務課長、何かありますか。

(教育総務課長)

ありがとうございました。定期的に今、立川九中の校長先生を含めて両校の校長、副校長と会議を持たせていただいています。私どもは事務局なので、学校を支援する立場ではございますけれども、校長先生、副校長先生、あるいは両校の子ども、児童が交流活動をしている様子も、その間に確認しております。事務局としては、その学校をサポート

ートできるよう、最大限知恵を絞って支援していきたいと思っていますので、今いただいたご意見を、学校のほうにもフィードバックして、支援していきたいと思います。ありがとうございます。

(清水市長)

ほかにございますか。簡潔にお願いいたします。

(田中委員)

それでは、先ほど説明がありましたので、私のほうで、3点、提言申し上げます。

まず9年間での学びの連続性、一貫性を生かして、第一にICT機器の活用の授業実践の小中の交流活動でございます。

2点目に小中の特別支援教育におけるカリキュラムの連携でございます。

3点目が、現在若葉小学校で実施されている教育力向上推進モデル校、これを平成30年度には立川第九中学校にもモデル校として交流を進めてはどうかということでございます。

以上3点、ご検討のほど、よろしくをお願いいたします

(清水市長)

3点ほど要望がございました。指導課長

(指導課長)

ありがとうございました。1点目のICT機器等の交流ということで、実はけやき台、それから若葉、そして九中は合同の校内研修会をやってございまして、そういう中で例えばICTの中で、この間あったのは走り高跳びでございますけれども、走り高跳びにICTを活用して、その実践の姿を、一人一人が自分の姿を見て、ああ、僕はここの飛び方が悪いんだとか、そういうような、お互いに効果的な授業ができたという交流が進めていて、なおかつ、今後より一層進めていただきたいなと思ってございます。

それから特別支援教育における小中でのカリキュラム、発達に応じた指導ということでございますので、教育支援シートと個別指導計画というものに十分基づいて、お互いに小中で共通理解、児童生徒理解を果たすということと、そしてまた、指導方法の具体的な引き継ぎについても、今後力を入れていきたいなとは思っています。

それから最後の教育力向上推進モデル校でございますけれども、まさに全く同じ考えで、ここは中学校、小学校ともに指定をして、さらなる9年間を見通したカリキュラム達成に向けてやっていきたいなと考えているところでございます。以上です。

(清水市長)

ほかにはございませんでしょうか。はい、佐伯さん。

(佐伯委員)

ありがとうございます。私のほうからは通学路のことについて、若干、父兄が恐らく今回はまた五日市街道を上を渡る。しばらくしたらまた下を下がる。今、仮設の校舎をつくっているんで、それに伴って誘導員ですとか、そういう方がいらっしゃるわけですが、皆さん、それぞれ違う場所から違う道路を通って通うことになったので、おそらくいろいろなところに、ここから渡りたいとか、ここが危ないとかっていうのは、それぞれ皆さんあるようなんですね。

それで、学校のほうにも、ここにも誘導員が欲しいとかいうようなことを意見として上げたりするんだけど、もちろん全ての要望が通るわけではないと思うんですが、どうしてここに誘導員を置けないのか、どうしてここを通学路としては指定できないのかという場合に、必ずしっかりとした意見を添えていただいて、お伝えいただくということを徹底していただきたいなど。決して予算がないのでここに置けないというような、理解をされないように、ぜひ安心安全は確保した上で、ここは通学路になっていないのだと、誘導員がないのだということをご説明をいただきたいと思います。以上でございます。

(清水市長)

新校ができるという、特に統合ということですから、おそらく子どもたちにとっては心配をすることがあるんでしょうけれども、同時に多分、わくわくするような期待感というのが、おそらく子どもですから持っていると思うんですね。そこら辺を、上手に丁寧に指導してやれば、子どもはすぐになれるから、私は大丈夫じゃないかなというふうに思っているんですよ。

ぜひ、これは、保護者、PTAの皆さんのご協力が不可欠でございますから、ぜひこれからも地域の方々には丁寧な説明と交流を教育委員会としては足まめにやっていってもらえばいいのかなというふうに思っています。どうぞよろしく願いいたします。

その他でございますでしょうか。

特にないようでございます。それでは、これをもちまして平成 29 年度の第 1 回立川市総合教育会議を閉会とさせていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

2. その他

(企画政策課長)

最後ですけれども、議事録につきまして、本日の議事録はまた皆様ご確認いただいた上でホームページ、それから 3 階の市政情報コーナーに公開をさせていただきます。

また次回の会議の開催につきましては、10 月 26 日、午後 3 時 30 分から、会場は本日と同じ場所を予定してございますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

(清水市長)

それでは、これにて散会とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。